「釧路湿原自然再生協議会」

第27回 土砂流入小委員会

資　　料

令和5年1月26日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会
第 27 回土砂流入小委員会　委員名簿

計：51 名

■個人（27名）　（敬称略、五十音順）

No	氏名	所属
1	荒谷　邦雄	九州大学大学院 比較社会文化研究院
2	石岡　　透	
3	伊藤　　毅	上智大学
4	井上　　京	北海道大学大学院 農学研究院 教授
5	岩崎　理樹※	北海道大学大学院 工学研究院 准教授
6	梅田　安治	農村空間研究所 所長 北海道大学名誉教授
7	岡田　　操	
8	川村　一人	八千代エンジニヤリング株式会社 北海道営業所
9	木附　晃実※	九州大学共創学部 准教授
10	坂井　一浩	八千代エンジニヤリング株式会社 北海道営業所
11	櫻井　一隆	
12	清水　康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
13	新庄　　興	
14	杉澤　拓男	
15	関　基	八千代エンジニヤリング株式会社 北海道営業所
16	竹中　康進	
17	長澤　徹明	北海道大学 名誉教授
18	中村　太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
19	早川　　博	北見工業大学 工学部 社会環境工学科 教授
20	日野　　貴	
21	平間　　清	(有)平間ファーム
22	深津　恵太	
23	藤岡　悠一郎※	九州大学共創学部 准教授
24	山田　朋人※	北海道大学大学院 工学研究院 教授
25	吉中　厚裕	酪農学園大学
26	渡辺　剛弘	上智大学
27	渡部　哲史	京都大学 防災研究所

※印　第11期（R4.11～R6.11）新規登録

■団体（16団体）　（敬称略、五十音順）

No	団体/機関名	代表者名
1	株式会社 日野組※	代表取締役　日野 貴
2	釧路川カヌーネットワーク	会長　小川 清史
3	釧路国際ウェットランドセンター	理事長　蝦名 大也
4	釧路自然保護協会	会長　神田 房行
5	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長　蝦名 大也
6	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居･伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー　原田 修
7	公益財団法人 北海道環境財団	理事長　小林 三樹
8	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所　水環境保全チーム	上席研究員　柿沼 孝治
9	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所　寒地河川チーム	上席研究員　大串 弘哉
10	さっぽろ自然調査館	代表　渡辺 修
11	標茶西地区農地・水保全隊	隊長　佐久間 三男
12	鶴居排水路維持管理組合	手塚 信幸
13	塘路ネイチャーセンター	センター長　鷲見 祐将
14	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長　百瀬 邦和
15	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長　黒澤 信道
16	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長　テディ齋藤

■オブザーバー（2団体）　（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長　鈴木 重充
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長　武藤 清隆

■関係行政機関（6機関）　（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長　井上 勝伸
2	環境省釧路自然環境事務所	所長　川越 久史
3	北海道 釧路総合振興局	局長　菅原 裕之
	北海道 釧路総合振興局 釧路建設管理部	副局長　京田 隆一
4	釧路市	市長　蝦名 大也
5	標茶町	町長　佐藤 吉彦
6	鶴居村	村長　大石 正行

第 26 回土砂流入小委員会の発言概要と回答

項目	発言概要	回答
河道の安定化対策	落差工には魚道が設置され、魚が上流に遡上できる環境になったと思う。当初目的の水辺環境の回復についても相当進んでいるように見えた。環境面のモニタリングをまとめる際には、久著呂川に生息する魚類がどのようにして移動して、どの場所に生息しているのかなども整理して頂ければと思う。	魚類など生物環境の回復状況等も報告できるよう検討させていただきたいと思う。
河川沿いの土砂調整地	今後の予定に記載されている維持管理が 2 年に一回程度となっている。この維持管理というのは、土砂の搬出のことを言っているのか。	堆砂が進行すると土砂を捕捉する能力が低下する可能性があるため、今後、2 年に一回程度の頻度で掘削を行い、土砂調整地の効果を持続させていきたいと考えている。 土砂の掘削は、費用的な面も課題であることを認識している。なるべく継続していけるように、今後、関係者と協議しながら対応を考えていきたい。
排水路合流部沈砂池	施設自体は、地元農業や釧路湿原の保全にも関係しているので、今後も地元で維持管理を続けていくと思うが、土砂流入小委員会、あるいは釧路湿原自然再生協議会に対して、いつまで報告を続けていくのか。	農業に関連する施設の維持管理は、継続的に行われている。 モニタリングは、例えば沈砂池から上げた土砂量を搬出時のダンプの台数で把握するなど、地元の負担軽減を図りながら、少なくとも土砂流入小委員会が継続される間は報告を続けていく必要があると考えている。
湿原流入部土砂調整地	越流部の維持管理はどのようにしているのか。越流堤の敷高が高くなっていくようなことは起きないのか。 土砂が越流部に堆積していくので越流部を維持管理しないと、左右岸に十分土砂が取り込めないのでは。	越流部に関しては、実際には土砂が徐々に堆積している状況である。今後、モニタリングして確認していきたいと考えている。 現状では、越流部に土砂が堆積して効果が発現できていないところまでには至っていないので、今後検証しながら進めていきたいと考えている。
	右岸側と左岸側の土砂調整地で捕捉量が随分異なっている。特定の期間の調査ではあるが、右岸側は 31㎥、左岸側は 9㎥ となっており、この違いはどこに起因するのか。	左右岸でどうして捕捉量の差が出るのか、例えば、滞留時間の違いがあるとか、微地形の違いがあるなどを確認して、今後の検討課題とさせていただきたいと思う。
	2 割を削減する計画としているが、下流の方は濁度が薄くなっている傾向となっているのか。同じ流量でも濁度が異なるのか。	土砂調整地を設置したことで土砂調整地に流水が流入して下流側では流量が低減するが、濁度が低減しているかは検証してみないと分からないところなので、今後検討していきたい。
その他	雪裡川と幌呂川の特に上流域で、久著呂川と同様に河道が不安定な状況となっていないか。 釧路湿原自然再生協議会発足当初に久著呂川以外の河川の検討もされていると思うが、他河川の河道の状況などを把握されているのであれば教えていただきたい。	複数の河川において事業を投入するのは難しい状況にあったことから、久著呂川を先行して実施してきている。 久著呂川の土砂対策の効果が出てきていることから、今後、久著呂川の次に実施すべき河川においても調査を実施し報告していきたいと考えている。
	排水路の上流側を調査したところ、ルルランの川になっていて、流水で削られている。 周辺は林になっており、流水により土地が削られている。水辺林・緩衝帯も必要だが、その他の対策も考えなければ、流水による侵食は止められないと思う。その対策を検討してほしいと思う。	土砂生産が多い箇所においては、緊急浚渫推進事業などを活用し、引き続き土砂上げ等の対応を行う予定としている。

第 27 回 土砂流入小委員会

資 料 目 次

頁

１）久著呂川における土砂流入対策について …… 土砂- 1
①河道の安定化対策（釧路建設管理部） …… 土砂- 1
②河川沿いの土砂調整地（釧路建設管理部） …… 土砂-15
③湿原流入部土砂調整地（釧路開発建設部 治水課） …… 土砂-22

２）事務局報告 …… 土砂-38
①排水路合流部沈砂池（釧路開発建設部 農業部門） …… 土砂-38